

診断ひろしま

平成29年1月 第76号



新年号

■ 巻頭の言葉『新年のご挨拶』 会長 岸本 実	2
■ 巻頭の言葉『新年のご挨拶』 副会長 西原 州康・田村 善光	3
■ 『中小企業診断士の日』 制定特集	5
■ スキルアップメニュー ～グループ研究成果発表会・実務補習報告～	9
■ 随筆・見聞録『和食ブームと国際化の波』 大木 健	12
■ 会員『診断士リレー訪問記』 原 信之介	13
■ 新入会員紹介	15
■ 平成28年度 委員会・研究会活動状況	18



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

巻頭のことば

『新年のご挨拶』

会長 岸本 実



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方には、すがすがしい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

日頃の当協会活動へのご協力に対しまして、深く感謝を申し上げます。

去年は、11月4日を「中小企業診断士の日」と定め、羅針盤を象った新バッジの制定、当協会では記念イベントとして、キャラバン隊が県内の関係機関様約100カ所を訪問、シンポジウムの開催、新聞広告やパブリシティなどを行いました。関係諸機関や事業者様に中小企業診断士の活動の一端をご理解していただくと共に、ブランド価値の向上に一定の効果があったものと考えております。

また明るい話題として、リオ五輪・パラリンピックでの日本選手の大活躍、広島東洋カープの25年ぶりのリーグ優勝、大隅良則博士の生理学・医学ノーベル賞の受賞などがありました。

広島県の経済状況を見ますと、業種間で山谷はありますが、生産活動・個人消費は共に緩やかに回復しつつあり、雇用情勢も着実に改善し、人手不足感が広がっています。有効求人倍率は24年ぶりの高水準で、広島県では1.57と全国平均の1.37を上回っています。中山間地域経済の疲弊・衰退、事業承継の遅れ(当県は全国ワースト3)への対応も大きな課題です。

世界経済を見ますと、資源価格や金融資本市場の変動、グローバリズムの進展に逆向する英国のEU離脱や米国の次期大統領の選挙に見られるポピュリズムの台頭、AIやIoTの技術革新の急速な進展もあり、経済の複雑化・高度化・先行きの不透明性、不安定化が増しております。

中小企業者にとっての経営は、嵐の暗夜を航行するようなもので、「経営の羅針盤」が不可欠です。支援に当たっては、フォアキャスト(過去のデータ等に基づく課題設定)ではなく、バックキャスト(現在と未来を俯瞰・予測し将来目標から課題設定)の思考プロセスが求められます。それは中小企業診断士の果たすべき本分・強みとするところで、関係機関様の認識も近年非常に高まっており、大きなビジネス機会に直面していると感じます。

今年も、当協会会員の独立系診断士・企業内診断士はそれぞれ活躍する場面は異なりますが、複雑化・高度化する経営環境の中で、地域に根を張り、地域の事業者・産業・経済の発展へ貢献する志を持って、会員それぞれが真摯な研鑽を踏み、関係機関様、関係士業様には一層の連携を深めさせて頂きながら、謙虚な姿勢を持ち、事業者の経営課題解決の支援、会員の勤務先の業務に取り組んでまいりましょう。

末筆ではありますが、会員各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

『新年のご挨拶』

副会長 西原 州康

新年、明けましておめでとうございます。平成29年の新春を迎え、会員並びに関係機関の皆様におかれましては、謹んでお慶びを申し上げます。

平成28年は、広島県中小企業診断協会の新たな取組みとして「中小企業診断士の日記念シンポジウム」を開催いたしました。他資格と比較して知名度の低い中小企業診断士の知名度を上げるために、協会本部が中小企業診断士制度の制定された11月4日を「中小企業診断士の日」に定め、各県協会では全国でこのような広報活動を行うことになったのです。



広島県中小企業診断協会では11月10日にシンポジウムを行いました。その数週間前から幹部全員がキャラバンとして広島県内の各中小企業支援機関を訪問し、直接広島県中小企業診断協会の取組みや中小企業診断士の得意分野をPRして回りました。私もキャラバンに参加し、様々な広島県の中小企業支援機関に訪問PRを行いました。そこで、改めて中小企業診断士に対する期待が大きいことを実感いたしました。中小企業診断士は、支援対象である中小企業の経営者にはまだまだ知名度は低いのですが、中小企業支援機関の皆様からはその能力や実績が認められ、「高く評価しているし、もっと連携を深めたい」との声を多く聞くことができました。実際に中小企業支援機関から広島県中小企業診断協会に来る受託案件も年々増えています。

シンポジウムの当日は多くの行政、中小企業支援機関、経済団体、金融機関、会員の皆様にご参加いただき、大いに盛り上がることができました。また、FM放送の取材もあり、私も人生2度目のラジオ出演をいたしました。翌日の新聞にも記事として大きく取り上げていただき、今回の目的である中小企業診断士の知名度向上につながったのではないかと考えています。

中小企業診断士の強みは、行政の中小企業支援施策をキチンと理解していることと、国、県、市町、中小企業支援機関、経済団体、金融機関と繋がりが強く、コンサルティングと施策の活用を同時に提供できることだと思っています。広島県でも今後待ったなしの「地方創生」「働き方改革」のために、創業支援、経営革新支援、事業承継支援等を早急に進めて行く必要があります。そこで、さらに中小企業診断士の活躍が求められる時代が来ると考えています。

今後も「中小企業診断士の日」を中心に広く中小企業診断士と広島県中小企業診断協会の能力や活動を発信して、行政、中小企業支援機関、経済団体、金融機関とより連携を強化し、一体となって、「オール広島」として広島県の中小企業、経済を盛り上げて行こうと思っています。

引き続き、本年も広島県中小企業診断協会の活動にご支援、ご協力、ご指導のほどよろしくお願いたします。

最後に本年の皆様のご多幸と御健康を祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

『新年のご挨拶』

副会長 田村 善光



あけましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、会員並びに関係機関の皆様におかれましては謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、マイナス金利政策の導入で定期預金の利息がほとんどつかない状況が継続したり、マイナンバー制度が始まり年末にかけて個人番号確認書類や身元確認書類の提出を関係先から依頼を受けたり、リオデジャネイロオリンピックがあってテレビ視聴時間が増えたり、カープが開幕当初はBクラス予想であったのが夏頃にはひょっとしたらと思いはじめ、最後には25年ぶりに7度目の優勝をして感激に浸ったり、広島県中小企業診断協会では11月4日を中小企業診断士の日と制定したのを受けて記念シンポジウムを開催等がありました。カープ優勝により経済効果が過去最高の340億円もあったそうで、昨年のカープの活躍に使われた「神ってる」は昨年の流行語大賞になり、カープ優勝はすごいと感心し来年も優勝してほしいと願っています。

また、昨年の漢字は「金」でありましたが、その理由は「リオ五輪で過去最高のメダル数を獲得したからとか、ピコ太郎の衣装が金色で派手だからとか」とのことですが、金が選ばれた理由に「中小企業診断士のバッジが金色一色になった」ことも個人的には付け加えたいです。

年をとると日々同じような日々を送っていると感じて子供の頃より早く1年が過ぎたと感じる一方で振り返るといろいろあった1年だったと思い出して加齢による物忘れも感じています。

そこで、自分が気になるのは物忘れと身体の老化です。まず、物忘れ防止は、昔の上司が自動車更新手続きの記憶力テストですべて正解した人は始まって以来3人目だと言われたことを教訓に自分も記憶力アップ訓練を始めようと思っています。そして、健康のために、昨年は人生で初めて大腸検査を受け、医者から腸内写真を見せられて問題ないと言われてほっとしましたが、今年は脳検査などの検査を受け、多少の物忘れがあるが健康で人生を楽しく生きがいを感じて過ごせるようにできればと思っています。

今年はどうなるのか？広島県の人口は、昨年度は40年ぶりに社会増加となったとのことです（中国新聞）。また、広島県の金融経済月報（日銀広島支店）には「広島県の景気は緩やかに回復基調」と記載され、ここ6か月間の日経平均株価は徐々に上がってきており19,000円台まで上がりました。今年の年初の景気は悪くないスタートになると勝手に予測していますが、・・・。

最後になりましたが、会員の皆様並びに関係機関の皆様が健康であってさらなるご飛躍されることを祈念致します。

トピックス

『中小企業診断士の日』制定 記念イベント

イベント実行委員会

【中小企業診断士の日】

中小企業の経営支援に専門家を活用しようということで、昭和23年11月4日、中小企業庁により「中小企業診断制度」が発足した。それから約70年後の今日、中小企業を取り巻く経営環境は厳しさを増し、企業経営に関するノウハウを有する中小企業診断士の役割は益々重要となり、社会的責任も一層増大してきた。そこで（一社）中小企業診断協会では、中小企業診断士の知名度向上と活動範囲の拡大を目的に、毎年11月4日を「中小企業診断士の日」（以下診断士の日）に制定し、全国的なイベント活動を実施することとした。



委員長 西村 英樹

【新バッジ】



中小企業診断士のブランドを確立し、広く社会にアピールする事を目的に、バッジのデザインも一新された。デザインは中小企業の輝かしい未来を指し示す「中小企業診断士の使命」を表現した羅針盤をモチーフにして、シンプルかつ重厚で、長く身に付けても古さを感じさせないものとなっている。また、直線で構成された図柄は「ぶれの無い誠意」を表している。

【広島県診断協会のイベント】

広島県診断協会では、診断士の日のイベント実施に当たり、7月よりイベント実行委員会を組織し、イベントの企画・運営を行った。イベントの実施目的を①診断士の認知度向上、②関係機関との連携強化として、「関係機関を訪問するキャラバン」、「新聞・ラジオによるPR活動」、「記念シンポジウムの開催」のイベントを実施した。イベントはキャラバンでスタートし、PR活動を展開しながらシンポジウムで幕を迎えるという一連の流れに沿って実施され、シンポジウムの集客等にも大きな効果を発揮しながら、診断士の認知度向上、関係機関との連携強化という当初目的を達成できたと考えている。

岸本会長、西原・田村副会長をはじめ各理事、県協会事務局、ご協力頂いた会員の皆様に感謝申し上げます。（西村 英樹）

イベント実行委員会

	委員長	副委員長	委員	委員	委員
氏名	西村 英樹	増田 宣彦	原 信之介	中尾 友和	落野 洋一
担当	全般	PR活動	シンポジウム	キャラバン	事務局

～キャラバン～

診断士の活動の周知と診断士の日の制定を記念したシンポジウムの集客を目的に10月中旬より11月4日にかけて県下120カ所の関係機関を19人の診断士が手分けして訪問するキャラバンを行った。

各訪問機関から出た意見などは以下の通り。

[商工会、商工会議所]

診断士には通常の経営指導員では出来ない高度な専門的な支援を期待する。具体的には、経営革新計画、補助金などの事業計画作成支援、経営力向上計画のように新しい制度のアドバイス。シンポジウムに対して、道の駅の話に大変興味があるので是非出席したい。



委員 中尾 友和

[市、町]

診断士の制度はこんなに昔からあるという事を知った。診断協会が事業を受託しているのを知らなかった。今後何かの時に検討材料にしたい。

[金融機関]

外部の専門家と連携して事業者の経営課題へのサポートが求められている。今後、積極的に連携を図って行きたい。など、様々な意見を得る事が出来た。

全体を通じて、商工会、商工会議所は中小企業診断士と言えば普段から関わりがあるのである程度分かってもらえたが、市町に関しては中小企業診断士が何をしているのか、どう仕事を出せばいいのかわからないという意見が多かった。診断協会として、市町より事業を受託するには、具体的な企画を持って行き、事業として予算をつける所からの提案が必要だと感じた。その際に、予算がついた場合も公募となるので注意が必要である。



今まで各場所を回る理由が無かったのでこの機会に回る事が出来て良かったと思う。シンポジウムへの動員も図る事が出来、実りあるものになったと思う。今後、キャラバン訪問をきっかけに訪問した先には顔を出すようにし、受注機会を増やし、診断士の活躍の機会を広めて行きたい。協力いただいた、各先生方、厚く御礼申し上げます。(中尾 友和)

キャラバンメンバー (敬称略)

広島市内	広島近郊	廿日市等	呉・東広島等	三原・尾道等	備北
岸本 実	江川 雅典	小川 成洋	増田 宣彦	加藤 克敏	大村 貞之
西原 州康	小寺 崇之	落野 洋一	井上 明雄	保本 宜範	田辺 稔
田村 善光	畑井 謙一		中尾 友和	幸野 昌賢	
佐藤 温彦	松浦 由浩			弓掛 元	

～シンポジウム～

11月10日（木曜日）午後1時30分より、広島市中区のひろしま国際ホテルにて、「地域経済に貢献する中小企業診断士」をテーマに、2部構成のシンポジウムを開催した。シンポジウム開催に先立ち、FMちゅーピーの現地中継があり、岸本会長、西原副会長、高東会員がそれぞれインタビューに応じた。続くシンポジウムでは司会を榎会員が努めた。



委員 原 信之介

【第一部 基調講演】

岸本会長の開会の挨拶後、来賓を代表して中国経済産業局中小企業課課長近村淳様より祝辞を頂いた。続いて西原副会長より県協会の活動についての説明があり、その後基調講演として、広



島経済同友会 筆頭代表幹事の森信秀樹様から「輝け！わが街（まち）わが故郷（ふるさと）」と題して講演が行われた。診断士でもある森信様は、駆け出し時から今に至るまでの商店街活性化に向けた支援活動や診断士としての心構え、経済同友会での活動として、地域活性化に向けた様々な取り組み等について熱く話された。

【第二部 中小企業診断士の活動・研究事例の紹介】

はじめに道の駅よがんす白竜 代表取締役・駅長の高東会員より「よがんすな話」と題して講演が行われ、自動車会社で培ったマーケティングスキルを活かしながらも、新メニュー開発や店舗改装等で苦労を重ね、低迷していた道の駅を飛躍的に発展させる過程をユーモアたっぷりに話され、会場の笑いを誘っていた。



委員 落野 洋一

続いて、県協会グループ研究委員会所属の2研究会より発表が行われた。まず海外展開支援研究会からは「海外展開のための実践的マニュアル」について、西村会員が発表を行った。本研究は、海外展開を行う中小企業に対して診断士が効果的なアドバイスを行うためのマニュアル作成に関するもので、11月8日に東京で開催された「中小企業 経営診断シンポジウム」で平見代表が発表し中小企業診断協会会長賞を受賞している。建設業研究会からは、増田代表が「利益を生み出す原価管理手法」と題して、建設業にとって重要であるが取り組みが遅れている原価管理について、独自開発の原価計算管理ソフトによる実演を交えた発表を行った。

当日は平日にも関わらず、外部からの参加者を中心に約70名の方々に会場に訪れて頂き盛況であった。（西村 英樹）

連載

1. スキルアップメニュー

平成28年度 研究活動成果発表会 開催報告

グループ研究委員会 委員長 岡 佳弘



平成28年11月26日広島県情報プラザ第3研修室において、5研究会の参加による「平成28年度研究活動成果発表会」を開催した。今年度は、聴講者26名と例年に比べると若干少なめの人数であったが、熱心にメモをとる聴講者も多く、中小企業診断士として研鑽に取り組む姿勢や、研究活動に対する関心の高まりを実感した。

当日は、平成28年度中小企業診断協会会長賞を受賞した海外展開支援研究会による「海外展開を行う中小企業のための実践的マニュアルの紹介と課題」を皮切りに、“食のエンターテインメント業”の実現に向けた診断事例の紹介（企業内診断士の会）、ISO9001-2015年版への移行の進め方（ISO研究会）、ニューロビジネスと企業活動（ニューロビジネス研究会：初参加）、5Sを有効活用した経営改善の取り組み（建設業研究会）など、各研究会における日頃の研究成果の発表が行われ、終始熱気に包まれた発表会となった。

また、発表会終了後は、発表者、会長、グループ研究委員会メンバーによる打ち上げを初めて開催し、研究活動に関する情報交換など発表会と同様に大いに盛り上がった。

最後に、本発表会の開催にあたり、発表原稿の作成やプレゼンを行っていただいた各研究会の皆様、準備等でご協力いただいた協会事務局に対し御礼申し上げ、開催報告としたい。



《発表テーマ》

研究会名	発表テーマ	発表者
海外展開支援研究会	「海外展開を行う中小企業のための実践的マニュアル」の紹介と課題	西村 英樹
企業内診断士の会	“食のエンターテインメント業”の実現に向けて～経営診断事例～	増矢 学
ISO研究会	ISO9001-2015年版への移行の進め方～事業計画との一体的な運用を目指した活動～	宮前 美方子
ニューロビジネス研究会	ニューロビジネスと企業活動	西村 英樹
建設業研究会	5Sを有効活用した経営改善の取り組み	柳川 治久

平成28年度 冬期実務補習2月コース受講(広島地区第1班) 報告
実務補習生：益野実、東真司、三上尚吾、内田邦彦(文責)

1. はじめに

平成28年2月19日から2月29日まで、三村信之先生のご指導のもと、メーカー勤務、建設業勤務、弁護士など計4名で、中小企業診断士の実務補習に取り組んだ。全員が15日コースの2回目であった。

2. 診断先企業の概要

診断先企業は、広島県A市で、プラスチック製品加工業を営んでおり、5年前(2011年)にも実務補習の診断を受けている。具体的な業務は、プラスチック製の看板・サインや、スポーツ用品の製品加工であるが、主要取引先2社から安定した受注があることと建設業界の好況により看板・サインの需要が高まっていることなどから、前回診断時よりも経営状況は大幅に改善されている。また、前回診断時は後継者不在が課題であったが、2年前に現社長の長男が後継者候補として入社している。

3. 現状の課題

当社の問題点は、これまでの経営が現社長(現在65歳)の「人柄」・「経験」・「知識」に大きく依存していることにある。このため、短期的には、現社長から長男へスムーズに事業を承継すること、中長期的には、長男へ事業を承継したのちに社会の変化に対応しつつ事業を発展させることが課題である。

4. 今後の方向性と改善提案

事業承継については、営業ノウハウといった「経営手腕の承継」と自社株式や事業用資産といった「財産の承継」の2つの視点から検討した。経営手腕の承継については、社長や工場長が長男に帯同しOJTにより営業スキルを承継する方法などを提案した。また、財産の承継については事業承継ロードマップを作成し、5年後(2020年)に社長を交代するとした場合の、役員構成や株式の移転などの手法を具体例として提示した。

長男が社長に就任したあとの展開としては、主要取引先以外への売上拡大や、従業員の増加にともなう技能・技術の承継の手法について提案した。また、生産管理についても、現在、目に見えるかたちで進捗管理などが行われていないため、すぐにでも取り組める容易な改善策を提案した。さらに、事業承継後の新規設備投資を含む事業の拡大も見据えて、今後10年間の数値計画を提示した。

5. 実務補習後の所感

初日の社長ヒアリングでは、丁寧に質問に答えていただき、誠実な人柄から当社がこれまで30年もの長きにわたって存続してきた理由を実感することができた。

途中、班員の1名がインフルエンザのため実習を続けることができなくなったが、三村先生からアドバイスを受けながら、3名が協力して予定通り診断報告書をまとめることができた。報告

時には社長から参考になるとのお褒めの言葉をいただいた。

最後に、ご多忙のなか、時間を割いていただいた診断先企業ならびに、精力的にご指導を下さった三村先生にこの場を借りてお礼を申し上げたい。

平成28年度 冬期実務補習15日間コース2回目(広島地区第2班) 報告
実務補習生：市岡和美、先川紀之、田邊一平、大賀隆裕(文責)

1. はじめに

平成28年2月19日から29日まで、田口信義先生のご指導の下、民間企業取締役、経営企画部マネージャー、税理士、パート労働者の4名で実務実習に取り組んだ。メンバーはいずれも15日間コース受講者で、2回目の補習であった。

2. 診断先企業の概要

診断先企業は広島県A市に本社・工場を置き、高い縫製技術で市場における「日本品質へのニーズ」を捉え、主にOEMによる製造を行う縫製業を営んでいる。国内の1工場に加えてASEAN地域に系列2工場を展開し、市場の拡大と共に、直近期の売上高は前期比150%と成長が著しい。また、中小企業の事業活動の促進に関する法に基づく経営革新計画の承認申請を広島県に行い、新工場の取得・移転と新規雇用を通じた需要開拓を企図している。

3. 現状の課題

成長速度の速さゆえに、社内体制の整備の遅れという「歪み」が出始めており、規模に見合った体制を充実させることと安定成長の基盤を強固にすることが課題である。短期的には経営革新計画下の新工場で、より効率的な生産体制を実現し、中長期的には人材・設備の増強と収益・借入返済のバランスが取れた、最適な成長軌道を描くことである。

4. 今後の方向性と改善提案

急成長する企業において、経営戦略では“第二創業期”ともいうべき新たな経営段階に突入するための経営体制の整備・構築につき、市場とOEM先の動向に基づく業績目標の設定を提言した。生産部門では新工場の設備レイアウト案を作成し、安全衛生と5Sの行き届いた生産効率の高い現場づくりと、QCDの安定化のための標準書類の整備につき提言を行った。労務部門では就業規則など規定類の整備、また、外国人技能実習生を含む人材の多様性を組織の活力につなげる取り組み、さらに、マイナンバー制度導入の流れや、中小企業大学校の講座を利用した後継者・管理者育成に関する提言を行った。財務部門では、経営戦略と連動した業績目標に対する3パターンのシミュレーションによる最適の損益と借入返済の計画案を提言し、また、資金繰り表の管理に基づく企業運営と中長期的な金融機関との付き合い方を提案した。

5. 実務補習後の所感

班員は全員が15日間コースを選択し、前週ようやく初回の実務補習を試行錯誤の末に終えたばかりであった。2回目補習までの少ない準備期間の中でメンバーは各担当分野の分析に意欲的に取り組み、指導員からの適切な助言とメンバー間のディスカッションによってまとめた“一本筋のある”報告書は、社長からも多くの首肯を得ることができた。

最後に、ご多忙のところ、時間を割いていただいた診断先企業ならびに、精力的にご指導を下さった田口先生にはこの場をお借りして改めてお礼を申し上げたい。

2. 診断士コミュニティ

随筆・見聞録 『和食ブームと国際化の波』

中小企業診断士 大木 健

私の住む廿日市市に地御前という地区がある。「地御前かき」で有名な土地だが、そこに長年通わせてもらっている居酒屋がある。店内には大きな生け簀があり、安くて鮮度の良い魚を目当てに、常時地元の人々で賑わう、典型的な地域密着型の店だ。地元で獲れた魚をはじめ、牡蠣や穴子、小イワシ料理といった郷土料理も楽しめるシブイ店だ。その店で、最近ちらほら外国人の姿を見かけるようになった。先日も、欧米人とおぼしき男性が一人、カウンターに座っていた。店の大将によれば、近くに外国人向けのゲストハウスが出来て以来、少しずつ外国人客が訪れるようになったとのこと。こんなシブイ店にも外国人が…。これも、和食ブームの影響か。

近年、世界では日本の「食」が注目され、和食ブームが起きている。ある調査では、外国人観光客が訪日時に期待することの1位は「食事」で6割以上の人がそう答え、また、外国人が自国の料理以外で好きな料理でも1位に「日本料理」が挙げられている。海外の日本食レストランもアジアを筆頭に、北米、欧州等もかなり増えているようだ。

一方、日本国内はと言うと、2013年12月に「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されて以降、「和食」に関する報道も多くなり、それと相まって国民が和食を食べる頻度も高まったようだが、その一方で、日本人の間で和食の存在感が薄れつつあるという気になるデータもある。(一社)和食文化国民会議が会員を対象に行ったアンケート調査でも、和食文化について心配されることのトップに「地場の食材を活かした郷土料理が消失していく」ことが挙げられている。

そんな、消失が懸念される郷土料理だが、探してみると、一般的には殆ど知られていない様々な郷土料理があることが分かる。しかも、その由来や謂れが非常に興味深い。

例えば、安芸郡海田町に残る「さつま」。「さつま」は、その名の通り、薩摩から伝わったとされる。海田は、江戸時代には西国街道が整備され、大坂から下関を結ぶ宿場駅として栄えた町で、長崎奉行や西国諸大名の参勤交代の通り道だった場所。そんな海田を参勤交代で訪れた薩摩藩士から伝えられたというのが通説だ。元々、薩摩には「さつま汁」という代表的な郷土料理があり、

「さつま鶏」を使うことに由来すると謂われる。これが海田では、鶏ではなく、(瀬野川で当時豊漁だった)コノシロを焼いて使うことに。ただコノシロは、武家社会では「コノシロを焼く」ことは「この城を焼く」に通じる、とても縁起の悪い魚とされていたため、コノシロだと分からないように、身をほぐし更にすり鉢でゴマと一緒に摺って、これを少し汁で伸ばしながら、結果、さつま汁とは似ても似つかない料理に代わって、今に伝わっているとのこと。このように、地域に伝わる、背景にストーリーや謂れのある郷土料理を発掘し、復活させてみるのも面白い。

さて、話を冒頭の居酒屋に戻そう。徐々に外国人客も訪れるようになったということで、英語メニューを作ってみてはどうかと勧めてみると「ああ、それなら、もう作ってるよ。」と大将。なるほど、見事な英語メニュー表が完成していた。こんなシブイ店にも、英語メニューとは…。和食ブームに加え、国際化の波も着実に押し寄せていることを実感させられた出来事であった。

『診断士リレー訪問記』

中小企業診断士 原 信之介

中尾 友和 (なかお ともかず) 氏



今回私が皆様にご紹介するのは、中尾友和さんです。

中尾さんは広島県呉市のご出身で、高校卒業までは呉市で過ごされていきました。大学進学を機に大阪へ出られ、大学卒業後は、「伊右衛門」で有名な京都のお茶の老舗「福寿園」に入社されています。福寿園では、主にスーパーや百貨店に商品を卸す営業の仕事に12年携わり、新規開拓件数No.1や年間最優秀社員賞を受賞されるなどの輝かしい経歴を持たれており、将来を約束された若手有望株の社員だった様です。

中尾さんが中小企業診断士を目指したきっかけは、社内で資格手当がつくからという不純な動機(笑)だったそうですが、資格の勉強する中で得た知識を基に顧客にアドバイスをを行ったところ顧客から大変感謝された経験があるそうです。この経験からもっと社会に貢献したいという思いが湧き上がり、昼はサラリーマンをしながら夜と週末は、当時の居住地であった愛知県名古屋市千種区今池地域の活性化を目的としたプロジェクトである「奥今池プロジェクト」を立ち上げられました。このプロジェクトでは、飲食店経営者を巻き込んで、地域をリブランディングする等の施策を実施し、多くの集客に繋げています。成績の良い飲食店では、月商前年比150%を超える所もあったそうで、地域活性化を得意とする診断士です。

中尾さん自身は、このプロジェクトを通じて多くの人に出会い、多くの気づきを得た事で、自分は最終的に何をを目指しているのかと自問自答する日々が続いたとの事です。辿り着いた答えは「地域経済に貢献したい」、「大好きな生まれ故郷広島を元気にしたい」という強い思いだったとの事で、前途洋々だったサラリーマンを辞める決断をして、2016年3月1日に広島県呉市中尾

経営支援事務所を立ち上げられました。

現在はブランディング、販路開拓の専門家として、開業1年目にも関わらず商工会などでのセミナー講演回数が10回を超えるなど独自の販路を切り開かれており、大変ご活躍されています。

中尾さんが目指す中小企業診断士像は、まず、自分自身が良い経営者となる事で、診断先の経営者等に経営者の心構えを説く事が大切だと考えています。小手先のテクニックに頼るコンサルタントとは、一線を画する事に注力されており、多くの中小企業経営者で構成される中小企業家同友会や倫理法人会などで勉強に励んでおられます。

また、中尾さんは「地元を元気にしたい！地元を元気にするにはまず中小企業診断士である我々が元気でなければならない！！高い専門性を持ったプロ集団である中小企業診断士が集まれば、地方都市広島でも凄い事が出来る！！という事を内外問わず幅広く広めたい。」という思いから、2017年6月3日に中小企業診断士シンポジウム全国大会を広島で開催すると宣言され、実行委員長を務める等、『地元広島の活性化』、『中小企業診断士の認知度向上』、『中小企業診断士の受注業務の拡大』の為に日夜頭を悩ませています。

私もシンポジウムについては、最初は「何を言っているのかな？」という感じでしたが、だんだん話も具体化してきており、最近では面白そうなシンポジウムになりそうだなと思っています。シンポジウム実行委員会には、気軽に入れる様ですので、皆さんも学生時代を思い出して実行委員会で盛り上げて頂ければと思います。また、シンポジウム参加希望者の方は、早期割引もある様ですので、早めに問い合わせみて下さい。

地方を変える事が出来るのは、「若者」、「よそ者」、「馬鹿者」と言われていますが、中尾さんは、「広島県独立診断士最年少!?!」、「県外からUターン」、「無鉄砲(笑)」と三拍子共に備わっており、まさに適任者だと思います。中尾さんは何かやってくれそうな期待感があります。今後は、シンポジウムの運営を通じて成長されると共に、経営コンサルタントとして大成されると確信しております。

本記事は、「馬鹿者」がお送り致しました。(笑)



『新入会員紹介』

正会員

佐伯 昌之（さえき まさゆき）



この度、広島県中小企業診断協会に入会させていただいた佐伯昌之と申します。中小企業診断士の登録は今から約4年前、平成25年4月に登録し、山口県で診断士業務を開始しました。今現在も山口県を拠点として活動をさせていただいております。

中小企業診断士として活動をさせていただく前は金属加工を行う中小製造業25年間、製造現場で製品作りを行ってまいりました。その経験を基に、中小企業診断士になってからも、製造業を中心に支援をさせていただいております。

これまで未熟ながら診断士業務をさせていただいておりましたが、自身の製造業支援スキルの成長を目指し、広島県中小企業診断協会に入会する決意をいたしました。全国的に製造業を専門に支援する経営コンサルタントは圧倒的に少ない中で、自動車産業の活発な広島県では製造業を支援されている先生方は多くいらっしゃると思うところがあるからです。甘い考えではありますが、先生方のご指導をいただける機会があればいいなと思っております。

勉強会等積極的に参加させていただくつもりです。よろしくお願いいたします。

正会員

松下 武司（まつした たけし）



平成27年9月に中小企業診断士に登録し、今年の5月に広島県中小企業診断協会に入会させていただきました松下武司と申します。現在、本社が東京にある住設機器メーカーの中国営業所で勤務しております。業務内容としてはタイル建材分野のビジネスユニットでの営業業務に従事しております。

この資格に挑戦しようと思ったきっかけは、私はいわゆる転勤族で東京、横浜、四国というエリアを担当していく中で、エリア特性にあった戦略を立てる能力を身に付けたいと思ったことでした。学習を進めていく中で、知識だけでなくそこで苦労を共にした仲間と出会えたことも今では私の重要な財産になっています。

今後、自己研鑽を怠ることなく、さらなくスキルアップを目指していきたいと思っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

特別会員

東 真司（ひがし しんじ）



平成28年4月に中小企業診断士に登録し、この度、広島県中小企業診断協会に入会させていただきました東真司と申します。現在は、東広島市の企業に勤めており、空調や生産設備などの更新を計画されている顧客に省エネ補助金の活用を提案しています。

主な顧客は、設備のメンテナンスや更新を計画する専門部署が無い中小企業で、経営者へ直接提案することも少なくありません。

様々な経営者と接する中で、設備の省エネや補助金の知識だけでなく、経営に関する知識があれば、もっと良い提案ができるのではないかと思います、中小企業診断士の資格取得を目指しました。

今では、自社サービスの売り込みや一時的な損得だけでなく、顧客のお困りごとは何か?にも配慮し、可能な限り対応するよう努力しています。まだ具体的な成果にはつながっていませんが、リピーターの増加や口コミによる新規顧客の獲得を期待しています。

当面は、企業内診断士として様々な活動に参加しながら自己研鑽に努めて参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

特別会員

高山 洋佑（たかやま ようすけ） 生まれ故郷の広島を盛り上げていきたいです



平成28年7月に中小企業診断士に登録し、この度、広島県中小企業診断士協会に入会させていただきました高山洋佑と申します。私は高校卒業まで広島で育ち、大学から就職と県外で過ごしていましたが、今年度の春に転職を期に広島へ帰って参りました。現在、広島市内のメーカーに勤務しております。

私が中小企業診断士を目指したきっかけは、前職での業務で事業戦略と事業計画の策定に携わることとなり、ビジネス全般の知識を学びたいと考えた為です。理系出身の私は、それまで生産設備の仕様決定や工場レイアウトの作成などを担当しており、事業を運営していくための体系的な知識が不足しておりました。勉強していく中で、実際に業務に活用できる様々な理論や会計知識は勿論ですが、我々が暮らす地域社会を支える地元中小企業・地場産業の発展についても考えられる視点を持つことが出来るようになりました。

中小企業診断士の資格を取得した今、私は地域社会の発展に貢献したいと考えています。広島を経済を支える多くの中小企業の方々が元気に働けるように、そして他方の方々が広島を訪れた時に魅力的な街だと思ってもらえるようなお手伝いが出来ればと思っています。

その第一歩として、私は現在「第4回中小企業シンポジウム」の実行委員を担当させて頂いております。会の趣旨である中小企業診断士が地方を元気にするための、実のあるディスカッションと提言の場を実現できるように頑張りたいと思います。

これから様々な業界に精通した診断士の先生方にご指導頂きながら、自分に出来る事、そしてゆくゆくは自分にしか出来ない事で広島の経済の発展に尽くしたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

『転入会員紹介』

正会員

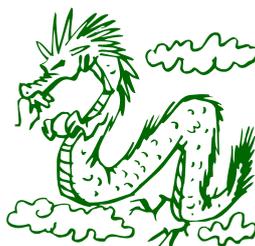
齋藤 泰 (さいとう たい)



初めまして。今年4月から東京都協会より広島県中小企業診断士協会に転入させて頂きました齋藤泰(さいとうたい)と申します。2015年4月診断士登録です。2002年に大学卒業し、主にコンビニエンスストアのシステム全般を担当するSEとして勤務していました。

現在は14年間従事したIT業界から離れ、呉市の島嶼部、安芸灘諸島(通称とびしま海道)にて地域おこし協力隊として活動しています。その中から、地域の飲食店や農家等個人事業主への支援といった診断士活動につなげられないか、日々模索しています。

診断士資格の貴重さは、毎年この時期の試験問題を解くたびに感じます。そのたびに当時の努力と幸運を思い出し、絶対に維持し、生かそうと決意を新たにします。一方で、実務補習でも痛いほど実感したのですが、やはり毎日経営者として現場に携わっている社長さんに対して、提供できる価値とは何だろう、という模索はまだずっと続いています。ぜひ、現場で日々活動されている診断士諸先輩方から学ばせていただければと思います。よろしくお祈りいたします。



平成28年度委員会活動状況

『広報委員会』

広報委員長 小寺 崇之

今年度、広報委員会では診断協会の取り組み等を会員各位および関係機関の方々に周知頂くための広報活動として広報誌「診断ひろしま」の編集および発行を行った。

①診断ひろしま第75号

新年度号として昨年5月に開かれた通常総会の報告、各委員会や研究会の年度計画等を中心に掲載を行った。平成28年7月発行。

②診断ひろしま第76号

会長および副会長の新年の挨拶、各委員会および研究会の活動経過報告等を掲載した。また、昨年11月に制定された「診断士の日」を特集記事として掲載を行った。平成29年1月発行（本誌）。

『会員研修委員会』

会員研修委員長 井上 明雄

1. 活動報告

昨年度に続き、一般公開の「広島県中小企業診断協会セミナー」を2回、当協会会員を対象に実務スキルのフォローアップを目的とする「会員研修会」を4回、年度合計6回の研修を企画・開催している。

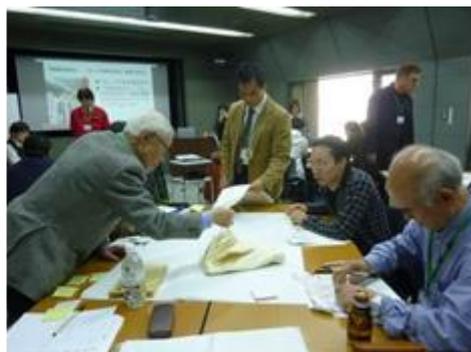
「広島県中小企業診断協会セミナー」は、「デザイン思考」をテーマとして開催した。「課題へのアプローチ～多様な視点で捉えるデザイン思考～：基礎編」では、デザイン思考の基礎的な知識の習得とともに、多様な視点で意見を交わすことにより、新たなアイデアやキーワードが生み出される「場」を体験・体感した。「多様な視点で捉えるデザイン思考：実践活用編」では、実際の中小企業が抱える課題を取り上げ、デザイン思考のツールを活用して新たな市場開拓の方向性を検討した。

「会員研修会」では、各種補助金申請の支援に関する情報交換をワークショップ形式で実施した。また、「事業承継における中小企業診断士の関わり」をテーマに、事業承継支援の最前線で活躍している中小企業診断士から事例を含めて事業承継の現状を学んだ。

2. 活動予定

今後は、2回の「会員研修会」を予定している。「創業支援スキルを磨く 創業予定者が求める支援」(1月21日(土))では、創業支援の現況と創業予定者の支援ニーズなどについて学ぶ。また、「効果的なチラシの作成(仮)」(日程未定)として、マーケティングの視点から顧客への効果的な訴求の手法を学ぶ。

ぜひとも多くの方に参加いただき、学びの場を共有できることを願っている。



「課題へのアプローチ～多様な視点で捉えるデザイン思考～」

『情報化委員会』

情報化委員長 西原 州康

活動内容紹介

情報化委員会の目的は、広島県協会のIT化を推進すること、並びに会員及び中小企業、地域社会に対して情報発信するためのITインフラの整備である。

これらを実現するために、以下の2つの活動を行っている。

1. 広島県協会のホームページ、SNS環境の整備

広島県協会のホームページ、SNSのインフラを整備し、事務局、各委員会等から随時情報発信できる仕組みを構築している。現在は、ホームページのリニューアルを計画中で、

平成29年4月にリニューアルオープン予定である。

2. 広島県協会のITインフラ整備、セキュリティ対応活動

会員や中小企業の情報が集まる事務局のパソコンに対して、バックアップやウィルス対策等のセキュリティ対応を行っている。

情報化委員会のメンバーは、委員長：西原州康、副委員長：落野洋一、委員：上垣内那典、黒崎崇貴の4名である。

『グループ研究委員会』

グループ研究委員長 岡 佳弘



グループ研究委員会では、中小企業診断士に求められる、経営診断技術・技能の向上や中小企業、関係諸機関とのネットワークづくりを目的とする研究会活動の活性化を図るとともに、新規研究会の設立促進に向けた取り組みを推進している。

昨年、研究会活動を紹介する「グループ研究会の活動（下記 URL 参照）」を発行し、協会ホームページや各種主催行事での配布を通じて会員内外に広く PR を行うとともに、各研究会の研究成果を発表する「研究活動成果発表会」、研究会の横の連携を図るとともに活動活性化に向けた諸課題を議論する「研究会連絡会議」を開催した。また、各研究会の自主的活動を支援するため「調査・研究事業（活動補助費）」の充実を図った。

当協会の研究会は、昨年3月に「ニューロビジネス研究会：西村英樹代表」が立ち上がり、計8グループが活動を行っており、現在も「デザイン思考研究会（仮称）：川角栄二発起人」の設立に向け準備が進められているところである。新規研究会の設立は随時受け付けており、1テーマ完結型や期間限定型の研究会の設立も可能となっているので、まずは気軽に事務局にご相談いただきたい。

今年も多くの方が研究会活動に参加され、あるいは新規に研究会を立ち上げるなどにより、自己研鑽やネットワークの拡大、ビジネス開拓に取り組んでいただけるよう、引き続き、研究活動の更なる活性化に資する環境づくりに取り組んでまいりたい。

[グループ研究会の活動]

<https://www.dropbox.com/s/u05zbu8feivpe4b/2015-2group-kenkyuukai-syoukai.pdf?dl=0>

『受託委員会』

受託委員長 岸本 実

受託委員会は、県協会の事業受託の窓口として、公的機関との連携による診断・助言報告書の作成、民間事業者の経営支援、大学との連携事業などの受託事業の調整、会員への業務委託、受託事業の成果の品質担保、新規受託事業の発掘、関連する仕組みづくりを推進している。

県協会の経済的な基盤強化には更なる事業受託の拡大が必須である。

中小企業診断士の役割に対する関係機関の認識が近年とみに高まって来ている。また昨年10月から11月にかけて行われた、診断士の日のイベントの活動による効果も期待できる。

それらのフォローの風を活かすべく、事業受託の拡大に向けて、協会の活動ともリンクし

ながら、メンバーが力を合せて、公的機関の深堀、民間機関とのネットワークの強化、PR活動の強化などに取組んでいく。

メンバーは、委員長：岸本実、西部地区担当として副委員長：田村善光、委員：児玉忠則、東部地区担当として副委員長：田辺稔、委員：幸野昌賢の合計5名の先生方である。

平成28年度 研究会活動状況

『ISO研究会』

研究会代表 栗山 琢次

1. H28年度 活動状況

ISO研究会活動のねらいは、組織におけるISOの有効で効果的な活用を指導できる診断士を育成することである。プロセスとしては、①規格要求事項の勉強会、研修参加でより深い理解、②2015年版改訂については、活動の成果としてグループ研究会で発表、啓蒙を図っている、③事例の持ち寄りと事例企業での実践的なコンサル活動などである。アウトプットとしては、これらの活動を通じてISOコンサル用の一般型指導ツール、マニュアル作りである。昨年度活動の前半は、介護・福祉サービス分野での第三者認証取得への指導方法の研究と事例企業での実践を進めた。また、後半からは、2015年版への移行に伴う企業の対応課題へ取り組んでいる。移行の期限が2018年9月に設定されており2017年度での取組予定の企業が多いと想定される。研究会の今後の活動も企業のニーズに応じて審査機関と連携した取組となる。コンサル活動の内容は、規格改定の趣旨に沿って「手順重視、文書・記録重視」から「プロセス重視、結果重視」に変わった。これに応じて「決められたことが実施できる組織作り」の支援から企業の事業活動の一環として「望ましい結果が出せる体制作り」を支援する方向へ進める。活動の周期としては、2ヶ月に1回とし、時間帯も企業内診断士が参加し易いことを基本に考えている。新しい参加者も広く募集しているので、11月に実施されたグループ研究会での発表など参考にされ興味を持たれた方は、協会事務局までぜひご一報を！



『企業内診断士 診断能力向上研究会』

研究会広報担当 谷本 俊満

企業内診断士の会（正式名称：企業内診断士診断能力向上研究会）では、企業診断等にかかわる能力の向上（研鑽）、中小企業経営の改善/革新の支援（貢献）、診断士の活動に必要なネットワーク作り（連携）を目的としてグループ研究、個人研究、診断実務等の活動を行っている。

28年度はグループ研究として「ビジネス書の診断活動への活用研究」、「マーケティング研究」、「まちづくり支援診断研究」の3グループ、個人研究として会員それぞれが独自のテーマを設定し研究を行っている。会員全員どちらかの研究を行っている。診断実務では6名のメンバーによりベンチャー企業の診断を実施している。

原則として月1回行う会合でこれらの活動について報告・発表し意見交換を行っている。

また、年2回県協会が実施する更新講習の後には当研究会以外の方も参加いただく交流会を開催している。7月23日の夏季交流会では山口大学 大学院技術経営研究科 教授 石野洋子先生

にビッグデータの活用に関する講演をしていた。11月19日の秋季交流会では株式会社タカキベーカーリー



取締役 常務執行役員で中小企業診断士でもある久保田浩先生に企業の成長に関する講演をしていただいた。両日とも盛況であり当研究会員以外にも多くの方に参加いただき、知識を大いに広げるとともに活発な交流が行われた。

11月24日に開催された「研究活動成果発表会」では、「“食のエンターテインメント業”の実現に向けて～経営診断事例～」をテーマとして増矢学会員が発表を行った。昨年実施した実務診断によって得られた成果を取りまとめたものであり今後の診断実務にも活用できる有益な内容であった。



このように様々な活動を通じて企業内診断士にとって意義ある会となるよう努めている。企業等に勤めている方は研鑽、貢献、連携の場として是非参加いただきたい。

『海外展開支援研究会』

研究会代表 平見 尚隆

中小企業の海外展開を調査しそれらの活動を効果的に支援する活動を研究している。今年度は中小企業診断協会の平成27年度「調査・研究事業」として受託した「海外展開を行う中小企業のための実践的マニュアルの研究・開発」の成果物である海外展開マニュアルの評価を行い、それに基づく論文の執筆活動を行った。この論文を平成28年度「中小企業経営診断シンポジウム」の「会員グループによる調査研究報告書」に関する論文発表の部で発表、みごと中小企業診断協会の会長賞を受賞した。表彰式が11月8日に行われ、代表を務める平見が出席した。また、この内容を中小企業診断士の日（11月4日）の制定を祈念して行われた記念シンポジウム（11月10日）にて西村会員が紹介、好評を呼んだ。研究会活動の成果が花開いた形となり、研究会を上げて喜んだ年となった。平成29年度は海外展開マニュアルの評価により得られた課題である、①撤退戦略やその具体的な事例 ②購買先選択の具体的手法 ③人事制度構築の事例 ④資金調達の実施 ⑤訴訟による紛争解決などのテーマに取り組んでいく予定である。



賞を受ける平見代表



会長賞 賞状



『ニューロビジネス研究会』

研究会代表 西村 英樹

脳科学の知見をビジネスに活用したニューロビジネス（ニューロマーケティング、人工知能（以下AI）、ロボティクス）が今後広く社会に浸透していくにあたり、中小企業経営支援の多様化を目的として昨年3月に当研究会は発足した。メンバーは、西村、三本木、平見の診断士3名と中小企業経営者3名で8月より研究会活動を開始している。現在は社会的に関心の高いAIについて、



AI研究者を招いての研究会、外部のセミナー参加等情報収集を中心に活動を行っている。AIについては、ディープラーニング等の新たな技術の出現により、その活用範囲は大きく広がっているが、AIブームも相まって少々加熱気味な報道もあり、期待・憶測の入り混じった情報の中から、現在どの技術がどのような経営課題に適用できるかの冷静な見極めが重要となってくる。

今後は情報の分類・整理、経営課題へのAI技術の活用検討にウェイトを置きながら、新たな診断分野の開拓に向けて活動を行ってゆく予定である。また、経営者メンバーに対するアンケートでは、当研究会に対する期待として最新情報の提供・活用事例の紹介、ヒューマンネットワークの構築だけでなく、診断士、経営者、研究者等多様なメンバーで構成されたAIワークショップ（アイデア発掘、コンソーシアム形成、行政事業への取組具体化）の開催を希望する声もあり、関係機関との一層の連携に取組んでいきたい。

今年度の活動状況

NO	実施月日	分類	議題
1	8月4日	研究会	「ニューロビジネスとは」「活動方針」
2	9月30日	セミナー参加	広島大学フェニックス協力会主催：「次世代人工知能とビッグデータ活用」
3	10月15日	研究会	AI研究者による講義：「GP（遺伝的プログラミング）とその応用」
4	12月10日	研究会	「AIの社会実装」「今後の活動方針」
5	12月12日	セミナー参加	広島県西部工業技術センター主催：「機械学習と転移学習の機能を有するリアルタイム画像認識システム」

まとめ

『事務局からのお知らせ』

1. 中小企業診断士更新登録申請手続きにつきまして

平成29年3月に更新登録時期を迎えられる会員の方へ、申請案内が送付されております。お早めに、必要書類をお取り揃えいただきまして、ご送付ください。

2. 第3回理事会開催のご報告

平成28年11月20日に県協会の第3回理事会が開催されました。理事会では予算執行状況の中間報告などが議題となり、承認されました。また、今年度から新たに制定された「診断士の日」の周知・PRにおける取り組みについての報告もありました。

3. 会員交流会の開催につきまして

今年度から始めた会員交流会を福山地区で開催します。

第4回 1月28日(土) 18:00~20:00 【福山駅周辺を予定】

開催直前ですが、参加を希望される方は事務局までお問い合わせください。

(予約した店舗の席数によっては、ご希望に添えない場合もあります)

また、当日は理論政策更新研修(福山会場)が開催されており、終了後に30分程度、名刺交換会を開催します。こちらは特に予約は必要ありません。

4. 会員発行の著書紹介

当協会会員の平見 尚隆(ひらみ なおたか)先生の著書をご紹介します。

「ストーリーで身につけるスペイン語基本会話」(MP3、CD-ROM付き)、定価2,052円(本体1,900円+税8%)。

【内容紹介】

スペイン語圏の国に赴任することになった日本人青年が、入国するシーンから現地での生活に慣れ、生活を楽しむストーリーにそって、初級からどんどんレベルアップして中級まで学んでいけるようになっています。英語対訳と、メキシコで収録した生き生きとした自然でリアルな会話表現と、トレーニング用音声を付属のCD-ROMで聴くことができます。

(ベレ出版 書籍紹介ページより一部抜粋 <https://www.beret.co.jp/books/detail/596>)



『編集後記』

新春を迎え、会員および関係機関の皆様におかれましては、健やかな日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。併せて、広報誌発行にあたりご協力下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

診断ひろしま第76号は、新春号と位置付け誌面構成させていただきました。例年、新年号では座談会を行いその模様を特集記事としていましたが、本年につきましては、昨年11月に制定された「診断士の日」の特集記事を組ませていただきました。診断士の日に向けて、全国の都道府県の各県協会が一丸となり、中小企業診断士の認知度向上のための様々なイベント等を行いました。そうした活動を通じて、中小企業診断士の認知度が企業経営者や各関係機関だけでなく社会全体の中で向上していくことを願っています。また、この広報誌につきましても同様に、県協会の取り組みを、会員だけでなく関係機関の方々に広く知っていただくための一助になれば幸いです。

この平成29年が皆様にとって実りある一年になるようご祈念申し上げます。

(広報委員長 小寺崇之)

表紙の写真：マツダスタジアムにて



一般社団法人広島県中小企業診断協会会報 第76号

発行：平成29年1月10日

一般社団法人 広島県中小企業診断協会

〒730-0052

広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ3階

TEL (082) 569-7338 FAX (082) 569-7336

E-mail: jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp

発行人 会長 岸本 実

編集人 広報委員長 小寺 崇之